

創刊 15 周年のご挨拶

～引き続き「がんが難病でなくなった日に廃刊することを目指して」まいります

いつも『統合医療でがんを克つ』をご愛読いただきまして、ありがとうございます。

お陰様にて本誌は創刊 15 周年を迎えることとなり、この通巻 180 号となる 6 月号を挟んで 3 カ月にわたり創刊記念号を発行いたします。

私が学生の頃は 21 世紀まで 20 年あり、「21 世紀までには、がんの治療法は確立する」と予想されていました。しかし、21 世紀が 20 年以上経過した今でも、大きな進歩を遂げた分野も多くあるにせよ、がんが難病であり続けていることは残念でなりません。

では、なぜ科学が進歩しても予想を裏切ってがんは難病であり続けるのでしょうか。本誌に 15 年間携わってきて感じたことは、がんはその患者さんの生活習慣やメンタル面、対人関係など、医学が立ち入りづらい面が大きな要因だからではないかと思えます。局所の腫瘍だけではなく、患者さんを全人的に診る必要があり、その際は患者さんお一人お一人の個人差も考慮しなければなりません。このようにとても標準化しづらいので、科学が苦手とする分野だと言えます。

本誌は標準治療の良い面と、統合医療の良い面を掛け合わせて、その相乗効果でお一人お一人が「がんを克つ」ことを願って発行しています。科学が苦手とする分野も含めて良質な情報をお届けし、多くのがん患者さんが、それぞれ最適な治療を受けることができることを願っています。

引き続き「がんが難病でなくなった日に廃刊することを目指して」まいりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和 5 年 5 月

『統合医療でがんを克つ』発行人

吉田 繁光



編集協力いただいている柳澤厚生 点滴療法研究会会長と